

第 23 回がん臨床研究フォーラムプログラム

平成 25 年 6 月 14 日（金） 於：国立がん研究センター内国際研究交流会館

<開会の辞>（9：00～9：10）

- ・ 全国がん（成人病）センター協議会会長 堀田 知光
（国立がん研究センター理事長）
- ・ 第 23 回がん臨床研究フォーラム実行委員長 上池 渉
（国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター院長）

<午前の部>シンポジウム（9：10～12：00）

主題：高齢者のがん医療

現在、日本ではがん患者、高齢者ともに増加しつつある。つまり高齢者のがん患者は今後さらに増加することが予想され、高齢者ががんに対する医療はますます重要なものになると考えられる。

高齢者は主要臓器の機能が低下しているという身体面、不安やうつ傾向が強い精神面、さらに家族、収入など社会的基盤が弱いことが多いなどの特性を持っている。従って高齢者のがん医療においては若年者の医療をそのまま画一的に適用できないことも多い。今回はさまざまな分野から、高齢者のがん医療の特徴、問題点について論じていただく。

座長：国立病院機構呉医療センター中国がんセンター 外科医長 畑中 信良
国立がん研究センター 東病院 呼吸器内科医長 仁保 誠治

【9：10～9：40】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 1 高齢者のがんの疫学 ～拠点病院院内がん登録からみた高齢者のがん～
国立がん研究センター がん統計研究部部長 西本 寛

【9：40～10：10】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 2 高齢者がんに対する化学療法 ～肺がんを中心に～
国立がん研究センター東病院 呼吸器内科医長 仁保 誠治

【10：10～10：40】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 3 高齢者に対する外科治療
国立長寿医療センター 外科、周術期診療部長 深田 伸二

【10：40～11：10】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 4 高齢者がん患者の看護
国立がん研究センター中央病院 がん看護専門看護師 清水 陽一

【11：10～11：40】（講演 25 分、質疑 5 分）

- 5 高齢者がん患者に対する放射線治療
国立病院機構北海道がんセンター 名誉院長 西尾 正道

【11：40～12：00】

総合討論

<昼食休憩>（12：00～13：00）

<午後の部>ワークショップ (13:00~15:50)

主題: 緩和ケア

がん対策推進基本計画の重点課題に「治療の初期からの緩和ケアの実施」が掲げられていたが、「迅速かつ適切な緩和ケアががん診療の中でまだ十分に提供されていない」と平成24年度の基本計画で述べている。新しい基本計画の取り組むべき施策の中で、「全人的なケアを診断時から提供できるように診療体制を整備する」、「精神腫瘍医をはじめ専門職の適正配置を図り、緩和ケアチームの診療機能の向上を図る」、「在宅緩和ケアを提供できる診療所などと連携する」と掲げられた。今後の緩和ケアの推進のための取り組みや成果について報告する。

座長: 国立がん研究センター東病院 緩和医療科科長 木下 寛也
国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター 緩和ケア科科長 砂田 祥司

【13:00~13:45】(講演 40 分、質疑 5 分)

- 1 緩和ケアの現状・目指すべきもの community - based integrated palliative care
国立がん研究センター東病院 緩和医療科科長 木下 寛也

【13:45~14:20】(講演 30 分、質疑 5 分)

- 2 地域医療者支援・在宅療養支援を重視した緩和ケア病床開設について
兵庫県立がんセンター 緩和ケア内科部長 池垣 淳一

【14:20~14:55】(講演 30 分、質疑 5 分)

- 3 在宅緩和ケア推進に向けた千葉県がんセンターの取組
千葉県がんセンター 緩和医療科部長 渡邊 敏

【14:55~15:30】(講演 30 分、質疑 5 分)

- 4 精神心理的ケアの現状と課題
国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科科長 清水 研

【15:30~15:50】

まとめ

<閉会の辞>

国立病院機構呉医療センター中国がんセンター 外科系診療部長 吉川 幸伸